

もし、明日“多摩みらい市”の部長に就任したらまちをどうしていく?! 市民が作った「まちづくりシミュレーションゲーム」を体験しませんか?

少子高齢化や人口減少の課題に加え、新型コロナウイルス感染症対策やデジタルトランスフォーメーションの進展、ジェンダー平等や気候変動への取組…。そして災害への備え。市民が安心して暮らせるように行政では、どのように政策を決定し、取り組んでいるのでしょうか。

令和4年度わがまち学習講座では、平成30年に作成した、多摩市をモデルとした対話型自治体経営シミュレーションゲーム『SIMULATION たま 2030』を現在の社会や環境の変化に合わせ、受講者である市民の皆さんが考え、新バージョン『SIMULATION たま 2035』を作成しました。令和5年4月30日に受講者の皆さんが『SIMULATION たま 2035』をお披露目します。ぜひ体験しに来ませんか?

『SIMULATION たま 2035』体験会概要

(1) 目的

多摩市をモデルとした対話型自治体経営シミュレーションゲーム『SIMULATION たま』は、参加者が5人1組となり、市の部長役として自治体の行財政の仕組みを自治体経営視点で学びながら、5年後10年後を見据えて、限られた財源と限られた時間の中で事業の取捨選択に取り組むゲームです。SIMULATION たま 2035の体験を通して、多摩市の魅力や価値を再発見するとともに、現状や課題に触れ、私たちが住む多摩市に興味・関心を持ってもらうことを目的としています。

(2) 日時

令和5年4月30日(日)
午後1時30分～午後4時30分

(3) 場所

関戸公民館 8F 大会議室

(4) 定員

20名予定(応募多数の場合は抽選)

(5) 申し込み方法

ロゴフォーム：<https://logoform.jp/form/4N4o/235829>

または、電話、Faxにて住所・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号・メールアドレスを記入しお申し込みください。(締め切り：令和5年4月26日まで)



SIMULATION たま 2035 について

「SIMULATION たま」とは、多摩市をモデルとした対話型自治体経営シミュレーションゲームです。熊本県庁職員の自主活動グループ「くまもと SMILE ネット」が自主開発した「SIMULATION 熊本 2030」をベースに、平成30年に多摩市版としてアレンジして作成したものです。今回、わがまち学習講座にて、昨今の社会変化に合わせ、2035年までの将来に向けた内容『SIMULATION たま 2035』にアップデートしました。

『SIMULATION たま 2035』は、ターゲットを次世代のまちづくりを担う中高生とし、選挙イベント等の選択肢を取り入れることによって、中高生に当事者意識と地域への参加意欲を高め、自分事として楽しめる内容とし、自身の興味関心が広がるように心掛けました。

わがまち学習講座について

わがまち学習講座は、新たな市民主体のまちづくりを担う人材の発掘・養成を目的として、平成 25 年度から開催している講座です。

令和 4 年度は、「まちづくりシミュレーションゲームを一緒に作りながら、多摩市のこれからについて学びませんか？」をテーマとして 3 日間の講座を実施しました。講座には、10 歳から 79 歳までの市民の皆さんが参加してくださいました。

3 回の講座で『SIMULATION たま 2035』の作成するために、まず、平成 30 年に作成した「SIMULATION たま 2030」を体験して市の現状や課題を受講者間で共有しました。その後、『SIMULATION たま 2035』のビジョンやシナリオ、ゲーム性等をグループワークで検討して、ゲーム内容を受講者の皆さんで決定しました。



問い合わせ

くらしと文化部 文化・生涯学習推進課

電話：042 (338) 6882